

国語科学習指導案

令和6年11月28日(木) 第5校時 2年〇組教室

授業の視点

グループで互いの話合いの様子を見て、良かったことを話し合ったことは、相手の発言を聞いて受け止めたうえで、考えを話し、話をつなげるために有効であったか。

I 単元の構想

1 単元名 「そうだんにのってください」〔学指要領：知(2)ア、思A(1)ア、思A(1)オ〕

2 単元の目標及び児童の実態

	目 標	児童の実態
知識及び技能	・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(2)ア	削除
思考力、判断力、表現力等	・身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。A(1)ア ・互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。A(1)オ	削除
学びに向かう力、人間性等	・言葉がもつよさを感じるとともに、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	削除

3 評価規準

知識・技能	①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
思考・判断・表現	①「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 ②「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。
主体的に学習に取り組む態度	①積極的に相手の発言を受けて話をつなぎ、学習の見通しをもって話し合おうとしている。

4 指導及び評価、ICT 活用の計画 (全8時間：本時第6時) ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	態
1	・単元の目標を共有し、学習の進め方を確認する。(あ) 単元の課題 友だちの言ったことにつなげながら、そうだんごとについて話し合おう。		①	①
2	・友達に相談する話題を決める。(あ)	①	●	
3・4	・話合いの進め方を確かめ、どんなことに気を付けて話し合えばよいかを考える。(あ)	●	②	
5	・クラス全体で、教師の相談事について話し合う。 ・一人目の相談事について、グループで話し合う。(あ)(い)		●	
6	・二人目の相談事について、グループで話し合う。 ・グループで互いの話合いの様子を見合い、良かったところを振り返る。(あ)(い)		●	
7	・三、四人目の相談事について、グループで話し合う。(あ)(い) ・第5時の動画を見て、レベルアップしたところを振り返る。		●	
8	・学習を振り返る。(あ)(い)			●

※活用する学習支援ソフト等：(あ) デジタル教科書 (い) ロイロノート

5 単元設定の理由

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領〔思考力・判断力・表現力等〕A話すこと・聞くこと(1)オ「互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと」に位置付けられる。「友達の相談事を聞いて考えを出し合う」という

単元の課題を設定し、解決することにこだわりすぎず、相手のことを思って考え、グループのみんなで解決策を出し合うような拡散的な話し合い活動を行う。相談者の困り事に関心をもって聞き、受け止めた上で、相談者やグループの友達の発言を受けて話をつなぐためには、うなずく、質問する、復唱して確かめる、共感の気持ちを表す、感想を伝えることなどが必要となる。相手の発言があつての自分の考えであることをしっかり押さえたい。

そして、温かい雰囲気の中で行われるやりとりを通して得られる、話がつながることの楽しさ、話し合つてよかったという実感にこそ価値があると考え。それゆえに、「誰もが参加できる話題」「児童の力でも解決できる話題」「話してよかったと思える話題」の設定を心がけたい。身近で友達の助言が欲しい話題であれば、話し合いの必然性と価値を実感させることができると考える。そして、相談者を交替しながら話し合いを繰り返す中で、「はじめよりうまく話がつながるようになった」「友達の役に立った」という実感をもち、学んだことを今後の学習に生かしていこうとする意欲につなげたい。

(2) 児童観について

(削除)

6 人権教育との関わり

児童がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解するとともに、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになり、それが様々な場面等で具体的な態度や行動に現れるようにすることを達成するため、児童の発達段階に応じて、必要な能力や態度を育成したい。特に感性の観点から、自他の生命の尊さに気づき、自分だけでなく他の人を大切に作る心に共感する気持ちを育んでいきたい。また、技能の観点からも、互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐ力はよりよい人間関係を築くことにもつながるものである。

そこで本単元では、友達の相談事を共感的に聞き、相手のことを思って解決策を話し合い、協力して課題解決に向かうことを通して、自分だけでなく他の人を大切にしようとする人権感覚を身に付けさせたい。

Ⅱ 本時の学習 (6/8)

1 ねらい 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。

2 準備

教師：タブレット、大型モニター、話し合いのポイントをまとめた掲示物、話し合いの話型カード、

児童：そうだんとカード（相談者）、筆記用具、タブレット（撮影係）、めあて・振り返りカード

3 人権教育の視点

○感性：他の人の相談事を共感的に聴き合い、相手のことを思って解決方法を話し合い、協力して課題解決に向かうことで、自己有用感を得るとともに、他人を大切に作る気持ちに共感する。

○技能：相談したいことを話題に、話し合いの基盤となる「互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと」を学び、人間関係づくりの基礎を身に付ける。

主な学習活動 主な発問 予想される児童の意識〔S〕	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 前時の学習を振り返り、学習計画を基に本時のめあてをつかむ。（10分） 話をつなぐポイントは、何ですか。 S：うなずきながら聞くことだと思います。 S：もっと知りたいことを質問することです。 S：友達の考えに感想を言うことだと思います。 S：友達の考えを繰り返して確かめるといいです。 S：「私も〇〇さんと同じで～と思います」と、相手に つなげて感想を言ったら話がつながりました。 <めあて> 話をつなぐポイントを使って、そうだんごとについて話し合おう。 S：今日は、質問もして相談にのりたいな。レベルアップできるようにがんばるぞ。	○本時のめあてをつかむことができるように、前時の話合いについて問いかけながら、これまでにまとめてきた「話をつなぐポイント」や話し方、聞き方を確かめる。 ○それをするとなんないいことがあるのか、しないとどうなのかなど問いかけながら、相手を思った話し方、聞き方をすることへの意欲を高める。 ○人権を意識した事柄には「スマイル」のマークを付ける。 ○前回よりレベルアップしようという主体的に学ぶ態度を大事にするために、めあての提示後、各々がこの時間に頑張りたいことを「ふりかえりカード」に記入するように促す。 ○自分で決めためあてを発表するように促し、話合いのポイントを再度確認し合えるようにする。
2 前半の班が話し合いをする。（13分） 相談事を聞いて、友達の言ったことにつなげながら、考えを出し合ひましょう。 S1：かけ算九九が覚えられません。どうしたらいいですか。 S2：お風呂の中で何回も言って練習して、お家の人にテストをしてもらえばいいと思います。 S1：うんうん。S2さんの言うように、お家の人にテストをもらうのは、いいアイデアですね。わたしもやってみたいと思います。 S3：S2さんがお風呂でするといいと言っていました。わたしは・・・と思います。 S2：どうしてですか？ S3：・・・だからです。その方が・・・ S1：二人の話を聞いて、わたしは・・・してみようと思いました。ありがとう。 良かったところはどんなところですか。 S：〇〇さんは、前の友達の言ったことを繰り返して確認していました。 S：〇〇君が、もっと知りたいところを質問してお話がつながっていました。 S：「わたしもそう思うよ。」と言っていました。 S：理由も話していました。 S：〇〇さんの相談ごとについて、班の人達が一生懸命	○一人一人が発言できるように、1班3～4人で6班つくる。順番に相談者になり、一人につき5分と決めて話し合う。初めに3つの班が話し合いを行い、残りの班はその様子を周りで見て、よいところを見つけてフィードバックするようにする。 ○話し合いの仕方が誰にでもわかるように、話型を1グループに1つ置いておく。 ○後で振り返りができるように、話し合いの様子をグループの代表のタブレットで撮影しておく。 【★録画】 ○悩んでいる友達を励ますために、「にっこりワード」を使うように声をかける。 ○話し合いが停滞しているグループには、「話をつなぐポイント」を想起させる。 ○話し合いが終わったら、「終わりました」のプレートを机の上に置き、見ていた班の児童が一人一人の良かったところを伝えるように促す。 ○全員参加の雰囲気を作るために、見付けたよさをまずグループで伝え合ってから、全体で共有する流れをつくる。 ○児童から出た「良かったところ」を生かしながら、「話をつなぐポイント」「友達にかけてもらってうれしかった言葉」を板書して確認していく。 ○「人権教育の視点」に「スマイル」のマークを黒

命考えていました。 S：〇〇さんのそうだんは、わたしも同じように思っていたので、気持ちがわかりました。	板に貼っていく。
3 後半の班が話し合いを行う。(12分) 前の班の良かったところを取り入れながら、話し合いをしましょう。 S：お姉ちゃんとけんかをしてしまいます。どうしたらいいですか。 S：お姉ちゃんとバドミントンをして一緒に遊ぶのはどうですか。理由は、楽しいことを一緒にすれば、笑顔になるし、協力できて、仲良くなれると思うからです。 S：〇〇さんの考えは、いいと思います。私も前にお姉ちゃんと一緒に折り紙をしたら、教え合って楽しかったです。 良かったところはどんなところですか。 S：〇〇くんも、□□くんがやっていた「感想を言う」ができていました。 S：〇〇さんが、前の人が言ったことを、繰り返して言い直しをしていたので、話がつながりました。	○話し合いが滞っている班には、振り返りで出た前の班の良かったところを真似するように伝える。 ○話し合いが終わったら、「終わりました」のプレートを机の上に置き、見ていた班の児童が一人一人の良かったところを伝えるように促す。 ○相手の話を受けてつなぐことを意識して話し合っていたこと、相手のことを思って、解決できるように考えて、温かい態度で相談にのっていたことを称賛する。
4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。(10分) 友達の話を聞いて話をつなげることができましたか。どんな「話をつなぐポイント」を使えましたか。	○児童が振り返りのポイントを把握しやすいように、振り返りカードを用意する。 ◆評価項目（思） 発言や振り返りカードの記述などから、「互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいるか」を評価する。
<振り返り> S：自分が決めた「友達の話に感想を言う。」ができて、話をつなげられました。友達のお悩みが解決できそうでした。次は、友達の考えを繰り返してみたいです。 S：友達がいろいろな考えを出してくれたのがうれしかったです。私も話をつなげて、思ったことを言うことができました。	

板書計画

